

夏本番! あつさに負けず、
ご参加、ご来館ください。

環境サロン

身近な環境問題などをテーマに、みんなで気軽に
学びあえる場、語りあえる場が環境サロンです。
一度だけのご参加も歓迎です。
問合せ…0836-39-8110 (銀天エコプラザ)

里山の保全と再生シリーズ 第4回

8/21(木) 13:30~16:00

「里山ビオトープ二俣瀬の 見学と自然観察」

お 話: 原谷一誠さん、前田歳朗さん
ところ: 里山ビオトープ二俣瀬
http://www.nexyzbb.ne.jp/~shoji_waka/access.html
参加費: 無料

里山ビオトープ二俣瀬で、里山ビオトープ
二俣瀬をつくる会会員の自然観察員の方々に、
造られた経緯・目的や、ビオトープ内の
動植物について解説していただきます。
厚東小学校学童保育の子ども達を主対象に
していますが、一般参加希望の方は8月18
日 17:00 までに 39-8110(銀天エコプラザ)
にお電話ください。

まちなか「出張」 おそうじ隊 大募集!

今月は、トンボの希少種の生息地である中川ポン
プ場周辺の清掃を行う「出張おそうじ隊」です。
何気なくポイ捨てしたものが、いかに川や海を汚
染しているのか、実感しましょう。自然保護に興
味のある方も勉強になると思います。

参加希望の方は、8月24日 17:00 までに
39-8110(銀天エコプラザ)にお電話ください。

集合: 8月31日(日)15:00
銀天エコプラザ玄関前
(参加者には100エコハ進呈)

里山の保全と再生シリーズ 第3回

8/7(木) 18:30~20:30

「里山から子ども達に伝えたいこと」

お 話: 嘉村則男さん
(里山農家、クラインガルテン大富)
ところ: まちなか環境学習館
参加費: 資料代として200円(ただし100エコハ進呈)

山口市の仁保の奥で、里山農業の現場をフルに活用しな
がら、親子の体験学習の場を長年にわたって提供されて
こられた嘉村さんに、これまでのご経験と、いま子ども
達や社会に伝えたい想いを語っていただきます。

世代間地域対話シリーズ 第3回

8/28(木) 18:30~20:30

「いま、なぜ環境倫理が 大切なのか」

お 話: 浮田正夫さん
(うべ環境コミュニティ)
ところ: まちなか環境学習館
参加費: 資料代として200円
(ただし100エコハ進呈)

持続可能な社会をつくるための課題、
低炭素/省エネ・循環・共生のどれを
とっても、おそらくわれわれの価値観
を変えるところまで行かないとむず
かしい状況にあります。ESD とも関連
して、皆様とともに考えます。

9月13日(土)は まちなか エコ市場

♪出店者募集中です。
銀天エコプラザ(39-8110)まで
ご連絡ください。

宇部市まちなか環境学習館「銀天エコプラザ」には、環境関連図書も
ある学習室(無料)、使いやすい料金のミーティングルーム(大・小)
があります。ご利用、ご見学をお待ちしております。

ミーティングルーム 利用料金	小 (2階・12人程度まで)	大 (3階・30人程度まで)
9:00-12:00 (3時間)	151円	432円
12:00-17:00 (5時間)	259円	756円
17:00-21:00 (4時間)	302円	864円
冷暖房費	60円×利用時間	150円×利用時間

※貸出備品/プロジェクター(スクリーン含む)……各時間帯 1,000円

宇部市環境学習ポータルサイト 「うべっくる」



うべっくる

<http://www.ubekuru.com>

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、
随時更新しています。

「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。
facebook や Twitter へもこちらからアクセスできます。

まちなか環境学習館や環境に関することについて、ご意見・ご質問等、
お気軽にお寄せください。ポータルサイト内の問い合わせ欄やブログ、
フェイスブックのコメント欄もご利用ください。

リフレッシュ瀬戸内海岸清掃実行委員会

代表 西岐波校区コミュニティ推進協議会
 会長 中村達章
 事務局 〒755-0153 宇部市床波6丁目5-23
 西岐波ふれあいセンター
 Tel 0836-51-9249

リフレッシュ瀬戸内海岸清掃は瀬戸内海に面した1府10県で構成する瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会が1993年度から始めた取り組みです。以前からボランティアで海岸清掃に励んでいた西岐波では、1994年度からこの日に合わせて実施するようにするようになりました。

夏本番を前に今年は6月8日地域住民約700人が参加して西岐波の床波・白土・吉田・村松の海岸(約2.3キロ)を清掃しました。流木や海草、空き缶、プラスチックごみなど集まったごみは4.5トン。作業後には白い砂浜がよみがえり参加者も「安心して楽しい海開きが迎えられそう」と喜んでいました。

誰もが参加しやすいこの活動を通じて、「美しい古里の海は、自分たちで守っていく」という住民の、意識の向上も図りたいと思います。



環境歳時記 8月24日

森永ヒ素ミルク事件原因物質公表 (1955年)

終戦後、ようやく戦いの傷跡が癒えつつある昭和30年の6月から8月にかけて西日本、特に岡山県を中心に、乳児に異変が広まってきた。

乳児に発熱、下痢、腹部膨満、皮疹、貧血などの奇病が相次いだ。そしてだいに皮膚が黒ずんでいった。そしてお腹が腫れ上がり、衰弱してきた。そして病院にはこの様な症状を示す生後2か月から2歳ぐらいまでの乳児であふれた。

それを見た医師たちは、この病気の原因が分からず、とりあえず胃腸障害、夏バテ、貧血などとして処置をした。

この様な患者が多い日赤岡山病院の小児科矢吹暁民医師は急激に増えたこれまでの経験のない症状に、その原因究明に取り掛かり、市内の開業医にも協力を仰ぎ、まずはこの奇病を示す乳幼児は母乳ではなく、人工栄養で育てられ、そしてそのミルクは「森永乳業のMF印ドライミルク」であることを突き止めた。矢吹医師は取りもとりあえず森永商事岡山出張所に該当ミルクの販売中止を求めた。しかし森永商事は中止せずに販売を続けた。これに困惑

した矢吹医師は恩師である浜本英次教授に協力を求めた。教授は死亡した乳児の解剖した体内から灰白色のヒ素の結晶を検出した。そして乳児が飲んでいた粉ミルクからも多量のヒ素が検出された。

この結果、8月24日教授は「この奇病の原因は、森永乳業が製造した乳児用粉ミルクによるヒ素中毒である」と発表した。矢吹医師が森永商事に販売中止を求めて10日余り経っていた。

翌日の新聞、ラジオでこの事件は全国に知れ渡った。

原因の粉ミルクは森永乳業徳島工場で作られていた。当時粉ミルクの製造には新鮮なミルクだけでなく時間の経った物も使われ、固まりやすくなるのを抑える為に乳質安定剤(第二リン酸ソーダ)を加えていた。この第二リン酸ソーダがとんでもない物であった。乳児が口にするものに工業用の物を使っていた。それは日本軽金属清水工場がボーキサイトからアルミナを製造する際に出たヒ素を約5%含む産業廃棄物であった。間違っ国鉄仙台鉄道管理局に納入され蒸気機関車のボイラーの洗剤として使おうとしたが事前の品質検査でヒ素の混入が見つかり返品されていた。それが数社の手を経て森永乳業徳島工場に納入され、品質検査をすることもなく乳児が口にすると粉ミルクに入れられた。

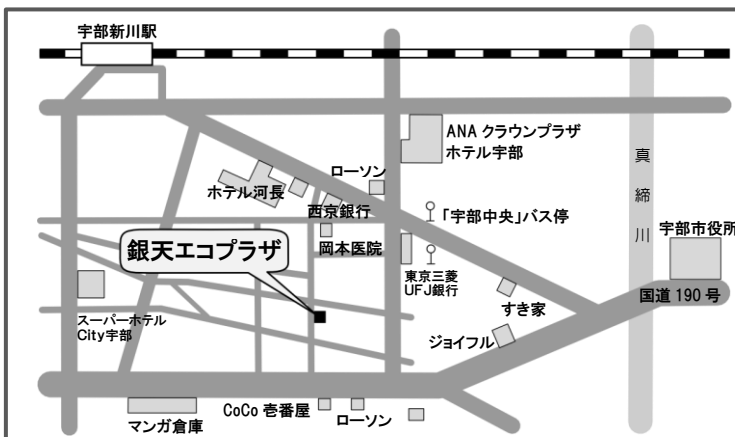
事件の対応にあたった医療識者機関「五人委員会は」当面の治療が収まれば後遺症はないとの結論を出し、加害者の森永乳業は裁判で元製造課長一人が禁固3年の実刑判決が言い渡された。約130名の死者と1万3千名余りの被害者を出した事件としては何となく納得のいかない判決となった。

被害者の母親は世間の冷たい仕打ちと、良かれと思って嫌がる我が子に毒を無理やり飲ませたという二重の苦しみを長く背負うこととなった。

この事件から14年、中毒事件は済んだものとして世間の記憶から消えていたが、事件は突然蘇った。大阪大学の丸山教授の指導の下、保健婦や養護教諭が被害者の家庭を訪問した際に後遺症が残っていることを発見「14年目の訪問」として公表され大きな社会問題として取り上げられた。事件は森永乳業製品の不買運動にまで発展し、森永乳業は被災者団体とともに救済の為に「ひかり協会」を設立し、恒久救済に取り組んだが、しかし今もってその対策の約半数は全く実施されていない。

事件発生から約60年、子たちはすでに老年期に入ってきている。患者は今も脳性麻痺、知的発達障害、癲癇、脳波異常、精神疾患等の重複障害に苦しんでいる。

(館長 西村誠)



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時~21時

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)